

ペットの防災 2 ～避難生活～

災害はいつどこで発生するかわかりません。そして、それは大切なペットたちも同じです。防災対策は十分行われていると思いますが、ペットのための防災対策は十分でしょうか？『備え vol.29』では「同行避難」についてご紹介しましたが、今回は「避難生活」についてご紹介いたします。

災害時、ペットとの同行避難の後には、ペットとの「避難生活」が必要となります。しかし、訪れた避難所が必ずしもペットを受け入れるとは限りません。避難所でのペットの対応については、受け入れ可・不可・受け入れるが部屋は分けるなど、自治体や避難所ごとにまちまちです。

ペット受け入れ可である避難所でも、人とペットとの生活スペースは分かれていることがほとんどで、屋内や屋外にケージや柵で囲った専用スペースを用意するといった対応をとっています。ちなみに、人とペットが同じ空間で避難生活を送ることは、「同伴避難」といい、同伴避難を認めている避難所もあるそうです。（※盲導犬や介助犬、聴導犬などについては、多くの避難所で「同伴避難」が認められています。）

ペットとの避難生活の実際例として、2016年の熊本地震の際には、屋外に並べた専用ケージの中にペットを避難させ、そこへ飼い主が世話をしに行く形態をとりました。また、2018年の西日本豪雨の際には、小学校の体育館に人間の避難スペースをつくり、別の教室をペット連れの方専用の同伴避難スペースとしていた避難所もありました。

避難先の避難所がペット受け入れ不可の場合には、安全を確保したうえで自家用車の中でペットと一緒に過ごしたり、遠方の親戚や友人に預けたりすることが必要となってきます。

それぞれの場所でのペットとの避難生活について、注意点とともに紹介します。

【避難所】

- 各避難所が定めたルールに従い、飼い主が責任を持って世話をする
- 飼養環境の維持管理には、飼い主同士が助け合い、協力することが必要

【自宅】

- 支援物資や情報は、必要に応じ指定避難所などに取りに行く
（自宅の安全確認を確実に行う）

【自家用車の中】

- 支援物資や情報は、必要に応じて指定避難所などに取りに行く
- ペットだけを車中に残すときは、車内の温度に常に注意し、十分な飲み水を用意しておく
- 長時間、車を離れる場合には、ペットを安全な飼養場所に移動させる
（安全の確認とエコノミークラス症候群には十分注意）

【知人や施設などに預ける】

- 被害がおよぶ可能性が低い遠方の知人に預けることも検討しておく
- 施設に預ける場合は、条件や期間、費用などを確認し、後でトラブルが生じないように、覚書などを取り交わすようにする



※出典：環境省「人とペットの災害対策ガイドライン」

ペットを飼われている方は、お住まいの地域の避難所がペットの受け入れについてどのような対応をするのか事前に調べておき、それぞれの避難生活に合わせた準備をしておきましょう。